

館報
いりやま

平成27年3月1日現在
世帯数 893戸
男 1,032人
女 1,108人
総人口 2,140人

入山辺地区人権学習会が開催されました!

このほど入山辺地区人権啓発推進協議会では、地区の皆さんが様々な人権問題に関心を寄せ、身近な事として考えを深めることを目的に講演会と視察研修を開催しましたのでその概略を記します。

講演会

入山辺老政会との共催で、四賀地区でグループホームを開所している江森けさ子さんとスタッフの白井さんをお招きし、「認知症患者を地域で支えるために必要なこと」と題し、幅広い視点から講演をしていただきました。



時折会場の参加者とやり取りを交わしながら、認知症の正しい基礎知識や日々接している認知症患者の生活の様子をありのままにお話しくださいました。以下は講演の概要です。「認知症患者やその家族は非常に大変で大きな不安を抱えている。家族だけで閉じこもって何とか対応しようとしても無理なので、地域にある資源を十分に活用しながら力を借りることが大切。日頃から相談できる体制を築いておく必要がある、周囲の人の何気ない声かけや気づきが認知症患者やその家族を支えていく大きな力の源となる。また近年は、介護殺人や虐待が増加しており、介護のために退職を余儀なくされる状況も数多く見られる。国は、認知症患者が予備軍も含めて800万人いると国民の不安を煽っているが、作られていない患者も多数いるのではない

か。メタボ予防すれば十分防げる認知症もある。グループホームは認知症患者の皆さんが安心して暮らすためには最高の環境である。患者一人ひとりは精一杯人生を歩んできた。それぞれの人生に根気よく付き合うことにより、会話を通して点の記憶を線にして面に結び付けていくことを大事にしており、患者の人権を最大限尊重することが大切」と話されました。

また、人形を使った語りでは、利用者が心の奥底に持っている心情が想像できました。講演中何回も江森さんの口から「楽しい」という言葉が出ました。お話の節々から大変な事は沢山あるはずですが、日々利用者に寄り添った丁寧な介護を実践されている様子が熱く伝わってきました。集まった60名の参加者も、それぞれの想いを胸に抱かれたのではないのでしょうか。



視察研修

長野市松代の「松代大本宮象山地下壕」を見学しました。松代大本宮の保存をすすめる会会員の和泉さんにガイドを依頼し、壕内を案内していただきました。全長5854mのうち見学できるのは約500mの区間です。

松代大本宮は、政府機関などの施設と通信などの関連施設を長野盆地一帯に移転する計画で、1944年11月1日に最初の発破が行われ翌年8月まで建設工事が進められました。労働力の主体は朝鮮人労働者で、多い時は朝鮮半島からの強制労働者を含む6500人ほどが大変劣悪な環境で危険な作業に従事しており、最盛期には日本人・朝鮮人総勢で約1万人が働いていたとのこと。壕内の気温は年間を通して15度前後であり、さほど湿気は感じられませんが、耐え難い苦



痛な作業に従事していた情景が目に見え、浮かんできるといって。戦後70年の節目の年を迎えて戦争体験者も年々減少しています。改めて戦争の悲惨さや愚かさを再認識し、尊い犠牲を忘れずに平和な時代を守っていくことが我々の責務であると痛感しました。

グループホーム

「ゆめの里入山辺」開所

JA入山辺支所の隣接地に開所しました。開所に先立ち3月13日に竣工式、翌日には内覧会が開催されました。認知症対応型で定員は18名です。地域に根差した施設として、利用者と地域の皆さんとの積極的な交流が望まれます。



文化誌発刊記念

歴史文化講座開催

地域の文化資産(伝統行事・石造物・神社仏閣など)と地域の文化の歴史が網羅された公民館報を一冊に取りまとめた「入山辺文化誌」の発刊を記念して、歴史文化講座が開催されました。

第一回目は、1月23日に「先人の教えに学ぼう」と題して、大島正人さんから、包石の地名の由来となった巨石について興味深い話を聞くことが出来ました。



第二回目は、2月11日に「地域の文化資産を知ろう」と題して、西桐原町会で行われた伝統行事の「湯立祭」の見学と、西桐原町会の文化資産を学びました。この歴史文化講座は来年度も継続して開催し、文化誌を活用しながら地域の歴史や文化資産を学んでいく予定です。

入山辺文化誌を読んで

厩所 朝倉 久美

私は入山辺が好きです。現在は、「こんな山辺にするじやん会」や公民館報編集委員として入山辺の魅力を伝える活動をしています。文化誌の編集にも少しだけですが携わらせていただきました。

地元の文化に興味のある私にとつて文化誌は楽しめる本です。文化資産については知らないことだらけで勉強になりました。こういったことを書き残すのは素晴らしいことです。そして、誰でも楽しめる本としてオススメは昔の公民館報。コラム記事では当時の生活や考えが垣間見えて面白いですし、家族や知り合いの記事を見つけるのも楽しいです。ぜひご家族で読んでいただきたいものです。

さて、入山辺好きの私ですが、高校卒業後は入山辺を離れ東京で暮らしていました。でも、やはり田舎が一番!と地元に戻ってきました。一度離れてみたことで、今まであたりまえだと思っていた文化が魅力的に感じられるようになりました。その魅力が文化誌の中には詰まっていると思います。今、地方は見直されてきていますが、入山辺の高齢化率

は高くいつまで文化が続いていくかわかりません。あるいは、無くなることも文化なのかもしれません。しかし、私は入山辺が好きです。文化誌がきっかけとなって少しでも入山辺にあるあたりまえが、そのまま未来に残っていつてくれたらと願っています。

なぜだろう?

科学体験館

2月28日、NPO法人チルドレンズ・ミュージアムの井口さんをお招きし、30名が集い開催しました。

前半は、様々な不思議な科学のしくみを体験しました。白と黒の色がついた板を回転させると何色も板に見えたり、コインを落下させるとコインの種類によって違う箱に入るなど参加者は大変興味をひかれた様子でした。また、地球温暖化や増加している自



然災害のことなど、日常生活を過ごす上で避けられないことを学びました。

後半は三種類の工作を行い、スライム、ブーメラン、モビールを作りました。子どもたちは皆熱心に作業に取り組みました。井口さんは、「今日の体験を通して『なぜだろう?』、『どうしてそうなるんだろう?』という疑問を常に持ち続けてほしい」と激励してくれました。大人も子どもも楽しみながら学習できました。

一年間の思い出

山辺小6年 宮坂 健祥

この一年間で入山辺ではたくさん行事があり、ぼく達小学生も参加して楽しませてもらいました。

6月の「夏の球技大会」、7月の「親子ひろば」、10月の「運動会」、11月の「文化祭」、12月の「しめ縄作り講習会」ともちつき、そして1月には「ふれあい交流会」がありました。このうち特に、「夏の球技大会」と「ふれあい交流会」は思い出になりました。

まず、「夏の球技大会」では、多くの小学生が来ていて低学年はドッジビー、高学年はドッジボールをやりました。低学年と高学年は交代で試合をやりました。また、お父さん、お母さんチームとも試合ができて、この一年でとても楽しい行事でした。

また、「ふれあい交流会」では、まず、お昼ご飯を作つたいてから体育館で5種類のスポーツを順に楽しみ、地域の人と交流を深めました。とても難しかったです。料理では、ぼく達小学生は切ったりをしました。とても楽しかったです。

